令和３年度「朝河貫一博士から学ぶ ふくしまの未来　講演会」実施報告

「朝河貫一と父・正澄―『報恩之辞』にみる立子山の教育」

講師：甚野 尚志 氏（早稲田大学文学学術院教授）

開催日：令和３年 11 月 28 日（日）　14：00～15：30

参加人数：47 名　　会場：福島県立図書館　講堂

今回の講演会では、旧二本松藩士である朝河正澄についてご講演いただきました。正澄は、福島県出身で世界的な歴史学者である朝河貫一の父で、立子山小学校の校長として立子山村民に慕われた人物です。

はじめに、立子山村や正澄の経歴について、ご説明いただきました。正澄は二本松城の北の鉄砲谷で誕生し、成長すると砲術を学ぶようになりました。貫一が誕生後、伊達郡立子山小学校に赴任し、その際に記した『正澄手記』についてもお話いただきました。また、二本松藩の「戒石銘」の精神を、立子山へ身を尽くすことで実現させました。この精神は貫一にも引き継がれたということです。

村全体の教育を熱心におこなった正澄は、村民から「天神様」と呼ばれ退職の際には記念品と『報恩之辞』が贈られました。『報恩之辞』とは長さ 15m に及ぶ巻物で、そこには、正澄に贈られた記念品の拠金者約 850 名の名が書かれています。イェール大学に所蔵されていますが、このたびレプリカが作成されることになったとのことです。

後半は、貫一が正澄から学んだことについてお話しいただきました。一つが、研究への精進です。正澄は貫一に対して早期教育を行い、貫一は正澄より克己の精神を受け継ぎました。貫一の日記に書かれた日課表によると、月曜日から土曜日は一日 10時間もの間研究をしていたとのことです。加えて、祖国日本への「報恩」も正澄から学んだことを、『朝河正澄手記』と合わせて解説いただきました。祖国のために尽くした貫一の使命感は、正澄の思想が反映されており、正澄の貫一への熱心な教育は、貫一の思想形成に大きな影響を与えたということです。

参加者は朝河正澄の業績や、息子貫一に与えた影響について、興味深く聞き入っているようでした。

※講演会にあわせて、令和３年 11 月 28 日(日)に、『報恩之辞』のレプリカの試作品を図書館のセンターホールへ展示いたしました。

（レプリカ試作品作成・展示協力　NPO 法人地域のみんなのチカラ様）

（地域資料チーム　横田愛美）